

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業改良普及費

事業名 新たなブランド育成支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農業経営課 普及企画係 電話番号：058-272-1111 (内4084)

E-mail：c11419@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,300 千円 (前年度予算額： 5,300 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,300	0	0	0	0	0	0	0	5,300
要求額	5,300	0	0	0	0	0	0	0	5,300
決定額	5,300	0	0	0	0	0	0	0	5,300

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

「ぎふ農畜産物のブランド展開」を推進するためには、農業者の収益性向上に直結する新たな品目の掘り起こしや、新たな売れる農産物の創出、効率的な生産技術の開発、生産現場への速やかな普及が不可欠である。特に国際化が進む中で、魅力ある地域独自のブランド展開が求められている。

(2) 事業内容

普及指導員が中心となって、県オリジナル品種や、地域にある自然・文化・人材といった資源を活かし、学校や企業など農業関係者以外と幅広く連携し、加工品づくりやイベントなどとのコラボレーション、特色ある栽培方法の普及等により、消費者に選ばれる新たなブランド育成を支援し、地域農業の活性化を図る。

(3) 県負担・補助率の考え方

ぎふ農畜水産物のブランド展開は、ぎふ農業農村基本計画に位置付けられており、農業の振興に必要であるため、県が費用を出して事業を実施する。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	86	講習会講師謝礼
旅費	431	巡回指導、先進事例調査等旅費
消耗品費	2,731	実証保設置に係る資材、マニュアル
燃料費	1,000	公用車燃料費
役員費	650	通信運搬費、土壌分析・品質分析費
使用料	238	機材使用料、E T C使用料
備品購入費	134	分析機器、加工機器費用
負担金	30	研究会等への参加負担金、視察料
合計	5,300	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略、ぎふ農業農村基本計画

(2) 国・他県の状況

複数の都道府県で、新たなブランドづくりに向けた事業が展開されている。

(3) 後年度の財政負担

事業は、普及指導基本計画（5ヵ年）に沿って行われており、継続が必要である。

(4) 事業主体及びその妥当性

農業改良助長法に基づき、県が農産物のブランド展開の支援を実施

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
ブランド化の推進や産地の持続的発展の支援を行う。
また、産地発展のため担い手の育成・確保を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
対象品目のブランド化(目標達成品目数)	0	6	10	10	10	60%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・選定した各地域の重点品目について、課題解決に向け、食品加工業者や小売業者等の農業関係機関以外と幅広く連携し、実証調査、品質分析、加工品開発等を実施。 ・以上の取組により生産量及び販売額が目標にむけ向上しつつある。
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・選定した各地域の重点品目について、課題解決に向け、食品加工業者や小売業者等の農業関係機関以外と幅広く連携し、実証調査、品質分析、加工品開発等を実施。 ・以上の取組により、生産量及び販売額が目標にむけ向上し、6地域において目標を達成、さらに1地域において目標を概ね達成した。（残り3地域については、新型コロナウイルス感染症の影響で目標を達成できなかった。）
	指標① 目標：10 実績：6 達成率：60 %
令和5年度	令和7年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</p>	
(評価) 2	<p>・ 地域の特性を活かしたブランド創出及び強化は、地域活性化につながるため事業の必要性が高い。 ・ ブランド育成及び強化には、栽培技術と地域連携が重要であり、普及指導員が中心となり進める必要がある。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	<p>・ 実証ほを設置し品種特性を把握すると共に、必要な品質分析を行い、実需者との連携を行う有効な計画である。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</p>	
(評価) 1	<p>・ ブランド創出及び強化にあたり、各地域の特性を活かしており、効率的である。地域活性化につながるため事業効果も高い。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 事業計画に基づき、関係機関と連携しながらブランドづくりを推進する。 各地域における農産物のブランド化について、普及指導員が生産面及び販売面から支援することは、地域振興のために今後も必要である。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など</p>	